

研究員会議

2021 年度

第 2 回 2021 年 10 月 27 日

(1)2021 年度予算執行状況について (全体)・2021 年度予算執行状況について (共同研究班別)
(2)2022 年度予算 (案) について(3)2021 年度共同研究費の追加および返上予算申請について(4)研究協力者人事 (新規登録) について(5)非文字資料研究センター・センター長選出に関する確認事項について(6)選挙管理委員の選出について

第 3 回 2021 年 12 月 1 日

センター長選出について

研究会

公開研究会

2021 年度

第 1 回公開研究会「日本近世生活絵引」の世界：琉球人行列と江戸編 2021 年 10 月 23 日 (Zoom 会議)

研究班研究会

2021 年度

第 2 班 中国近世・近代における生活・風俗の研究

2021 年 7 月 28 日 (Zoom 会議)、2021 年 10 月 30 日 (Zoom 会議)

第 3 班 〈メディア〉と〈身体〉から見る 20 世紀ヨーロッパのポピュラー・カルチャー

2021 年 9 月 7 日 (Zoom 会議)、2021 年 9 月 14 日 (Zoom 会議)

第 4 班 東アジア開港場 (租界・居留地) における都市の発展と建築調査

第 72 回研究会 2021 年 5 月 21 日 (Zoom 会議)

第 73 回研究会 2021 年 6 月 19 日 (Zoom 会議)

第 74 回研究会 2021 年 7 月 8 日 (Zoom 会議)

第 75 回研究会 2021 年 10 月 23 日 (Zoom 会議)

第 76 回研究会 2021 年 11 月 13 日 (Zoom 会議)

第 5 班 「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社

2021 年 4 月 24 日 (Zoom 会議)、2021 年 7 月 10 日 (Zoom 会議)

第 7 班 戦時下日本の国策紙芝居研究

2021 年 4 月 10 日 (横浜キャンパス 1 号館 804 室+Zoom 会議)

現地調査

2021 年度

調査テーマ	日程	場所	調査メンバー
東アジア開港場 (租界・居留地) における都市の発展と建築調査	2021 年 6 月 29 日～6 月 30 日	津久井氏宅	大里浩秋
中国近世・近代における生活・風俗の研究	2021 年 8 月 11 日～8 月 12 日	和泉市久保惣記念美術館・神戸市立図書館	中林広一
東アジア開港場 (租界・居留地) における都市の発展と建築調査	2021 年 11 月 6 日	近藤氏宅	孫安石・大里浩秋
戦時下日本の国策紙芝居研究	2021 年 11 月 13 日～11 月 15 日	香川県立ミュージアム・横山隆一記念まんが館・平和資料館草の家	安田常雄・大串潤児・原田広・鈴木一史・小山亮

編集後記

コロナウイルスが社会全体に蔓延するようになってはや 2 年が経ちました。この間、研究活動にも様々な変化が生じています。その不便さを嘆く声はそこかしこで聞かれますが、とりわけ国内外の調査活動に対する制限、ここに向けられた声は大きいようです。

こうした状況は、当然本センターにとっても他人事ではありません。が、その中でも可能な活動を模索し、研究の蓄積と成果の公表がなされていることは喜ばしいことです。本号の内容にもそうした執筆者の皆さんの姿勢が見て取れますので、ぜひ各文章に目を通していただければと存じます。

と、ここまで記した時点で、「活動が制限される」という状況をマイナスに捉える感性こそ見直されるべきかもしれない、と思い直してもいます。活動に制限が生じる中で私たちは否応なく従来とは違った立ち位置に据え付けられます。そこから見える光景は今までのそれとは異なったものが広がっていますが、異なった光景だからこそ浮かぶアイデアもありましょう。その意味では、この状況は新芽の息吹を感じとるチャンスであるとも言えます。本センターでは来年度から 3 つの準備班が立ち上がる予定です。これまでにない新たな試みでもあり、本センターにとってどのような展開が待ち受けているのか、大いに期待されるところです。(中林広一)

表紙紹介

沖縄本島の勝連半島とその沖合にある藪地島、平安座島、浜比嘉島に囲まれた海域には干潟が広がっています。表紙の写真は、その干潟で獲られるタコです。このタコは沖縄本島では「シガヤー」「シガイ」、平安座島では「ンヌジ」と呼ばれています。写真に写っているタコは、平安座島出身の仲原正和氏が「ンヌジベントウ」という貝殻を使用した自家製の漁具を用いて捕獲したものです。そのため、ここでは「ンヌジ」という名称で統一します(仲原氏は貝殻の収集家としても著名で、仲原氏が世界中から収集した貝殻の一部は、うるま市立海の文化資料館に「仲原貝類コレクション」(2933 点)として所蔵されています)。

先述の干潟に面した地域でンヌジは、食料であるとともに、ンヌジが獲れるようになる秋から冬の季節の風物詩となっています。ンヌジ漁は、漁師が行うというよりも一般の人々が楽しみとして行う性質を持っています。また、うるま市立海の文化資料館学芸員の前田一舟氏によると発掘資料の分析からンヌジ漁で用いられるンヌジベントウは、有史以前から存在していたものと指摘されるなど古い歴史を持っています。

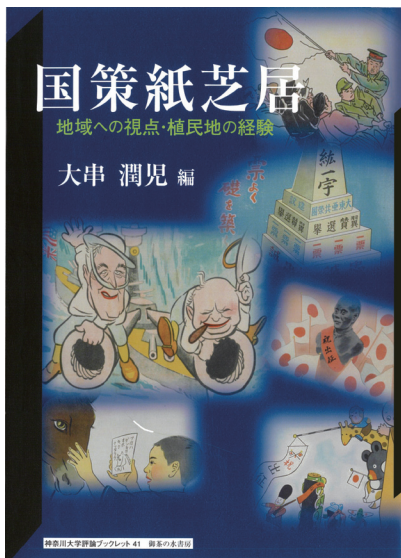
ンヌジにまつわる豊富な文化や歴史は、商業的なものではないため古文書に記録されることもなく、普段はあまり注目されるものではありません。そういったものに注目することも、非文字資料研究の醍醐味といえるのかもしれません。(新垣夢乃)

神奈川大学評論ブックレット 41

大串潤児編 国策紙芝居—地域への視点・植民地の経験

国策紙芝居の現場を訪ね、隠れた資料を掘り起こし、現地の人々の戦時下の経験と出会う。

本書はそうした触発力に満ちた交流の記録である。(帯より)



- 2022年3月18日刊行
- 発行：御茶の水書房
- 定価（本体1000円＋税）

●内容
はじめに（抜粋）

失われた「国策紙芝居」を可能なかぎり発掘し、作品それ自体の意味や、紙芝居にかかわった人びとの姿を明らかにすること。さらに人びとの記憶のなかでもモヤがかかっているように見える「戦争と紙芝居」についての全体像を明らかにし、戦争下民衆のすがたを照らし出すこと。こうした問題を考えることが私たちのねらいである。そのことは、ひいては、普通に暮らす人びとにとって、戦争はどのようなかたちで迫ってくるか、という問題も見えて来るだろう。そして、この仕事には、海外や地域の人びととの対話がとても大事な作業となってくる。このブックレットがそうした「対話」のきっかけとなればと思う。

第一章 紙芝居研究のおもしろさとは何だろうか？—方法的エッセイ

- I 紙芝居共同研究の根もとにあるもの（安田常雄）
- II 国策紙芝居のなかの漫画—近藤日出造と横山隆一をめぐって（富澤達三）

第二章 地域のなかの紙芝居—調査で出逢った人びと

第一節 地域でどのように紙芝居と出逢ったか—私たちの調査報告と地域史研究

- I 北海道へのまなざし（大串潤児）
- II みなかみ町猿ヶ京「民話と紙芝居の家」（原田広）
- III 残すことと活かすこと—信州（鈴木一史）
- IV 人形劇の図書館—滋賀大津（新垣夢乃）
- V 福岡—初めて地域に向かい合う（安田常雄）
- VI 地域で紙芝居に出逢うということ（大串潤児）

第二節 紙芝居につらなる人びと—地域からの発信

- I 一九四〇年代、戦時下のなかの遺愛学院（福島基輝）
- II 浦上喜平・学童集団疎開・紙芝居（北原勤）
- III 愛荘町 信光寺 紙芝居（小川亜希子）
- IV 残された紙芝居と神奈川大学非文字資料研究センター—但馬出石の紙芝居（川見章夫）

第三章 植民地や海外で紙芝居はどのように行われていたか—研究交流のあしあと

- I 台湾に紙芝居を探して—台南・宜蘭・台北・南投 二〇一五～二〇一六（安田常雄、松本和樹、鈴木一史、小山亮）
- II 台湾における紙芝居研究への関心（邱昱翔）
- III 韓国における植民地朝鮮紙芝居研究（權稀珠）

非文字資料研究センター News Letter No.47

発行日 2022年3月20日発行

編集・発行 神奈川大学 非文字資料研究センター
日本常民文化研究所

Research Center for Nonwritten Cultural Materials,
Institute for the Study of Japanese Folk Culture, Kanagawa University
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

■Tel.045-481-5661 ■Fax.045-491-0659 ■URL <http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/>

